

「新入職員に期待するもの」  
～人間と仕事～

ご紹介いただきました藤巻でございます。1時間お時間をいただいて新任職員に期待するものということでお話をさせていただきたいと思えます。お話しすることは、町とはほとんど関係ございません。前半が人間というテーマで後半が仕事というテーマであります。講演を仕事としているわけではありませんので、よろしくお願ひしたいと思えます。できるだけ眠くならないような話をしていきたいと思えます。

まず最初に、1時間ずっと話を聞いているのも飽きますので、皆さんに作業をしていただこうかと思えます。信頼ゲームということで、立っていただけですか。できれば椅子を中に入れてください。隣の方と一組になってもらえますか。どなたかあぶれてしまう方もいるかもしれませんが、一人だけあぶれたら3人で組んでいただければと思えます。では、対になって向き合ってください。男性、女性、構いません。あまり離れず適当な距離で近づきすぎない程度で願ひしたいと思えます。まず一人30秒自分の自己紹介をお願いします。

(自己紹介)

今度は相手の方の良いところ、印象がいいとか良いところを見つけて伝えてください。相手の良いところ、爽やかとか女性らしいとか見つけて伝えてください。

(相手の良いところを話す)

ありがとうございます。(相手の方のよいところをはなすことで)相手との距離がぐっと近づくんですね。それでは、ちょっと狭いですが、今向き合っている方、男性、女性そのまま構いません。二人で対になって手をつないでもらえますか、両手で。それで片方の方が目をつぶって、一人の方が誘導していただけますか。ぶつからない程度に、あまり大げさに動かないで、ちょっとでも構いません。目をつぶった方を誘導してください。机にぶつかりそうになったり、他のペアとぶつかりそうになったりしますよね。それを誘導する方がよく見ながら誘導していただけますか。目をつぶった方は目を開けないでくださいね。怖いですが、ちょっと動いてみてください。

(信頼ゲーム開始)

片方の方は目をつぶって、動いてください。ふざけてはやらないでくださいね。目をつぶっている方は大変怖いですので、相手の方を守る気持ちでやってください。今度は逆になってください。

(信頼ゲーム開始)

ありがとうございます。お座りください。本当はあと4人グループでというのがありますが、狭いからやめます。4人グループというのは、2人ずつになりですね。今度はさらに4人になってひとりが後ろへ倒れ、他の3人でそれを支えるというのがあるんです。これは大変怖いです。

倒れる人はものすごく恐怖を感じます。また機会があったらやってみてください。

今、何をやっていただいたかという、目をつぶって誘導されるだけで、手から相手が伝わってくるわけですね。そこに信頼が伝わってくるわけです。見えているものが見えないと大変怖い状況に陥りますけれど、握った手だけを頼りに誘導していただく、ひとつの信頼ゲームと勝手に名前をつけているわけですがそういうことをやっていただきました。何を言わんとするかというと、人間というテーマですので、人は一人では生きていけないんだということです。

それぞれの自治体で研修されて、何度も同じようなことを言われているのかも知れません。挨拶をしましょう。挨拶は、人間の付き合いの一番の入り口です。挨拶をしましょうなんて、教科書みたいなことを言っていますけれど、基本中の基本です。気持ちを込めて言う、できるだけ自分から言えるように心がけてください。人間として、自分から最初に「おはようございます。」と声をかけましょう。私はこれで勝ちだと思っております。町の中を歩いていて、子供達がランドセルを背負っていても子供達に先に声をかけられたら、負けたなと私は思っています。自分の方から最初に声をかける訓練をしていけば、いくらもできますので、それを心がけていただきたい。

とかく日本人というのは、シャイな人種と言われています。アメリカ人みたいに朗らかな感じではなく、おとなしめの国民ですので、挨拶をしないとかということも多々見受けられます。皆さんは今までやってこなかったという方もいるかもしれませんが、これからは変えてください。人生変わりますので。全く変わります。

私もある先輩にこう言われたことがあります。挨拶はできないのではなく、ただ、しないだけではないかと思ったんですけれど。その方は挨拶のできない人は、人に紹介できないと言うんですね。自分が紹介するのだから、それなりの人を紹介したい。相手に不快な気持ちをさせてしまうような人は紹介したくないと言うんです。ですから、挨拶できない人は、人には紹介しないって。そのことを聞いたときドキッとしました。せめてそうならないように、紹介していただけるような人間にならなければいけないのかなと常々思って参りました。そして、「おはようございます。」、「こんにちは。」、というだけでなく、そこに何か足したいんですね。「おはようございます。」、道を歩いていけば「今日は天気がいいですね。」、町、村のおばさん、おじさん達と出会ったら「今日は天気がいいですね。」と言うと返ってきますから。「おはようございます。」というのも大事ですが、そこもちょっと人なり相手に合ったようなことを、ちょっと添えるといいかと思えます。話がどんどん弾んでいきますよね。次の会話へと繋がっていきますよね。

挨拶は、大事です。挨拶ってお金かからないですよ。自分の大きな資源ですので、積極的に使わない手はないと思います。挨拶にはお金が

かかりませんので、挨拶をきちんとしていただきたい、そういうことです。

それから、夢がなくなったら、ただ生きているという話になってしまいます。その象徴的なデータがここにあります。

ジョン・F・ケネディー大統領、国民それから世界的に人気のあったケネディー大統領です。1961年に就任して以降、アメリカはソ連にいろいろな意味で遅れておりました。宇宙開発が。1961年に演説をしたときに、アメリカは人類を月へ送って、無事返ってくると明言いたしました。それから8年後、1969年にアポロ11号が月に行行って戻ってきたわけです。残念ながらケネディー大統領は発表した翌々年、1963年にダラスで暗殺されて亡くなって、これを見届けなかったわけですが、一国の大統領が月へ送るぞと言ったわけです。

当時はロケットなんかを造っていたわけですが、発表してすぐにそれが実施できるような状況になかったわけです。生身の人間が月へ行ってくるわけですので、肉体的にそれから精神的にそれに耐えられるのかというようないろいろな面での研究をし、それを全部集めてプロジェクトを成功させなければいけないわけです。

こうした状況の中、8年後に大統領が言ったことを実現したということです。もしそのときに、ケネディーが言っていなければ、思っていなければ、月面着陸はもっと遅れたと思います。思っていた、それをみんなに伝えた。そこからスタートして、それが実行できたということです。

これはアメリカの国家プロジェクトですが、私達一人一人の夢も同じなんです。私は何をしたらいいかよく分からないという方。時間は平等ですので、どんどん過ぎてしまいます。1年が過ぎ、2年が過ぎという形で。ですから、私はこういうことをしたい、ああしたいという夢をしっかり持っていたいただきたいということです。

そして、夢は漠然とではなくて、できるだけ具体的に頭に描くということです。具体的になればなるほど、実現が近づいてきます。

そして自分の頭の中だけで思っても、それでは実現への道筋がつかみませんので、多くの人達を自分の味方につけて協力者にしていくということ。それにはきちんと夢を書きとめるんです。

書くと、なんとなく漠然としているのが分かってきますので。書くと、もう少しこういうところは、どうなんだろうというものが見えてきます。それから自分の再確認にもなりますので、まず書いて、見直してまた書く、そして伝えるんです。これがものすごく大事です。

今、情報化社会と言われてはいますが、まさにそのものだと思いますね。私が友達に、「これこれこうしたいんだよ。これが夢なんだよ。」と伝えれば、友達は自分の持っている情報の中で、「こういう人を知ってるよ。藤巻がこういうことやりたがっているみたいだから。」と、関係のある人を連れて来てもらったり。また、「こんな情報載って

たよ。」と情報を持って来てくれるわけです。これが夢を伝えなきゃならない理由です。自分はこうしたい、ああしたいと伝えて協力者が現れるということですね。それが非常に重要です。

今、電子機器がどんどん進化してスマートフォンとかいろいろ出ています。皆さんもiPadとかお持ちでしょうけれど、それは情報化時代のツールです。道具ですよ。それは、自分が何をしたいか、どうしていききたいかというものに使う道具でしかないわけですね。機械を持っているだけではしょうがないですよ。機械は、アクセサリとかおもちゃの範囲を超えているわけですから、道具を使い切って自分が何をしたい、こうしていききたいということの方法を得るための道具であるわけです。ですから、そういう意味では、良い機器が出てきておりますので、それを使いこなしていただければいいかと思います。

この会場には、200人以上の人がいます。人が集まれば、まず考える人、いろいろ考える人、あまり考えない人、全く考えない人がいます。全く考えない人というのはあまりいませんが。考える人と考えない人、どっちが残るかという、考えた人が残っていくんですよ。消去法ですよ。考えなかった人は落ちちゃう。考えた人は生き残る。

次は、考えたけれど行動・実行したか、しないかでまた二分されます。行動・実行しない人のほうが多いと思うんですよ。行動・実行しなければ、ただ考えただけで何もならなかったということで、こっちは消えていきます。

実行したけどどうもうまくいかなかった、すぐ諦めてしまう人が沢山いるんです。やっぱりだめだ、でも一回、二回やっても、うまくいかないけど諦めずに何度も挑戦して行って、その先に成功というのがあるわけです。

ですから、全員が、考え、実行し、何度でも挑戦し、成功する。そういう人であって欲しいと思います。考える、行動する、考えているだけではだめです。行動しないとだめです。

人間というテーマですけれど、人間の可能性というのはものすごい。先ほどの月の話し。月まで行って帰ってくるというのができてしまう。それを考える人がいて、また乗っていく宇宙飛行士ですか、そういう人もいるわけです。本当にものすごくいろいろな意味での可能性が、我々一人一人に、人類にはあるんだと思います。

いろいろな環境、それから本人のいろいろな思いで、どうにも変わってってしまうというのがあると思います。

皆さんも知っているかと思いますが、狼に育てられた人がいますよね。小さい頃から狼が育てて、狼と一緒にいると、形は人間ですけれど狼になってしまうわけですよ。人間は環境によって、人であるんですけど、狼に育てられれば狼になっていってしまうという、逆の意味で言っているわけです。ですから、いろいろな意味で可能性というのがありますので。

それでは後半の仕事ということで、お話をさせていただきます。時間は有限です。そして、すべての人に平等です。1日24時間あります。今年の長野県の男性・女性両方とも長寿日本一ということで、大変誇らしい結果が出ました。男性80.88歳、女性87.18歳ということで、これが日本一です。ここに365日をかけてみますと男性が29,200日生きるんですよ。女性が31,755日、男性より2,555日生きられるということですよね。

約3万くらいの日数を皆さんは長いと思うか、短いと思うか、それぞれだと思いますけれど、私は短いと思います。1日というのは、あっという間に過ぎていきますよね。それから私くらいの年になりますと、どんどん1日の長さ、1年の長さが短くなっているような感じがします。あっという間に1年が過ぎていく。年とともにそんな感じを持たれると思います。3万日、人生って短いんだな。ここまで生きてですよ、生きられてですよ、そういうことです。時間というのは大事なんだと思っております。

ちょっと皆さんに提案をさせていただきます。こういう生涯カレンダー、自分史、自分の生涯カレンダー、こんなのを作って見たらどうかなと。私、あるグループに以前所属してまして、こういう生涯カレンダーを配られました。

自分で書き込めるというので、子供が幼稚園に入った、小学校を卒業するとか、そういうのを全部書き込んでいくんです。住宅ローンが何年で終了とか、家をこのあたりで建てようとか。これまた書いてみると、こんなもんかな、短いんだなという感じがしますし、なんか一つの目標ができて参ります。

人生を漠然と生きないでください。さっきも言ったように、夢は漠然としてではなくて、人生を漠然とは生きないで。漠然と生きても、しっかり計画して生きるも同じ一生です。それは皆さん一人一人が考えて自分の人生を演出して生きていってくれたら良いですけど、やはり漠然と生きていると漠然と人生終わってしまう感じがします。こうして生きたい、ああして生きたい、そのためにどうしようか、こうしようかこういふところに、少しずついろいろなものを落とし込んでいくといろいろなものが分かって参ります。ですから、こんなようなことを参考にしながら皆さんも一人一人、カレンダーを作ってくださいと良いかなと思います。

時間泥棒は失格ということです。皆さんの中には、時間に正確な方、周到に早く行ってきちっと時間を調節する方、滑り込みセーフなんて方もいるのかも知れません。皆さんは社会人ですので、何時に待ち合わせとか、ほとんどの仕事はそうなっているかと思えます。そうした時に、例えば10人との会議に自分が10分遅ければ、10人の方は会議を始められず10分待ってるわけです。一人10分です。それが10人ですと、かける10になってしまう。他の皆さん方の時間を無駄にってしまう。遅れた人が、そんな権利があるのかという話になります。要は遅れないで時間をきち

っと厳守してやって欲しいということです。時間は自分だけの時間ではないわけです。そんなことで時間泥棒はご法度ですよ、ということです。

忙しいというのはよくあります。私、忙しいんでとかって言う人いますよね。忙しい人ほど、あまり忙しだって言わないですよ。この世の中でものすごく活躍されている方というのは、あまり自分で忙しいとは言いません。忙しいなんて、みんな忙しいですよ。私は昼寝をするのに忙しいとか、その人なりの価値観で昼寝が大事だから忙しいということになるわけで、それはその人の時間時間ですので。時間は作らないとだめです。自分にいろいろな用事があっても、なんとかそこに組み入れて時間を充てていくということでない、暇なんかはほとんどありませんから。昼寝も暇じゃない人だってあるわけですので。昼寝が悪いというわけではないですよ。そのあたりの時間のコントロールは重要です。その積み重ねなんです。5分10分の積み重ねをしていきますと、長い年月の間には大きく自分にプラスになって返って参ります。

夢として伝えることの重要性、仕事でもそうです。「私はそう言ったはずです。」とかそういうのは通用しません。相手が自分の思うようにきちっと受け止めたかということは、非常に重要です。仕事をしていく中で、「私は言いました。」なんていう職員もいますけれど、それは相手に伝わってなければ、それは言わないと同じです。相手に伝わったかをきちんと確認するということが大事です。

連合艦隊の山本司令官の、有名な語呂があります。『してみせて言って聞かせて誉めてやらねば兵は動かん。』。ちゃんと教官がやって見せてこうやってやるんだよということを伝えて、そして誉めてやらねば兵は動かぬということですよ。いかに人に伝えるということは難しいかということを行っている言葉だと思います。それぞれ、人は受け止め方が変わりますので、同じ言葉でも相手が違う形で受け取る場合もいくらかもあります。ですから、できるだけ会話をしていただきたいということです。時間は5分10分の積み重ねというのは、人生非常に長い年月かでは大きな違いが出てしまうということです。

『天才とは小さいことを積み重ねる人である。』と言われていました。ある日、突然突如としてひらめいて、すごい大事業ができてしまう、中にはそういう天才もいるのかも知れませんが、多くは違います。小さなことをコツコツと積み上げていって、大きな事業を成し遂げていくものであります。

IPS細胞の発明をされた山中教授とかは地道に積み重ねて、すごい偉業を成し遂げられたわけです。日本だけでなく国内外でいろいろな大きな偉業を成し遂げられた人を見ていますと、みんなこういう方達です。役所とは違いますけれど。皆さん、もし分かる方がいたら手を挙げてご発言をいただきたいと思います。会社にはトヨタとかいろいろな大企業とかいろいろありますよね。何万人何十万という社員がいる会社があります。それから小さな町工場村工場もあります。零細企業、中小企業、

大企業、そこの社長に一つだけ共通するものがあります。それはなんだか分かるでしょうか。分かったら手を挙げてください。

社長に共通するもの一つ。例えば、トヨタの社長であれば、車の構造の技術的なものというのは社長が出る必要はあり得ないですよ。技術者、研究者の人達が沢山いますので、その方達の方が絶対社長よりは知識があるわけです。そういう人達が集まっているわけです。けれど、1万人いようが10万人社員がいようが、社長が一番持っているであろうというものがあります。分かるという人いますか。それは、やる気なんです。やる気というのは全ての社長、大きかろうが小さかろうが一番と言われています。やる気のない社長であれば、その会社の行く末はなんとなくわかってしまうし、そこに勤める従業員はかわいそうだなという感じになってしまうわけです。やる気ということですよ。

作ったもの全てそうですよね。紙コップというのも原始時代にあったわけではなくて、どっかの時代に誰かが考えますよね。それから、こういったハンカチーフ、私達の周りの着ているものもそうですけれど、全てのものはどこかの時代に誰かが考えて、そして我々が身につけたり使ったりしています。そして物だけではなくて、いろいろな制度も同様です。憲法から始まって法律・条例いろんな仕組みがあります。そういうもの全て、人が考えて作ってきたわけです。そして、それはずっと永遠に変わらないというものではないわけです。

社会の時代の変遷とともに変えていかなければならないものが沢山あります。皆さんはこれから制度、条例・法律そういう世界に関わるわけですが、それはもちろんそれに則って仕事をしていかなければなりませんけれど、常に疑問を持ってください。これはこれでいいのかということをおね。できているから、それは絶対変えることはできないとか強く思ってしまうと、ただそれをやっつけていけばいいんだということになりますので。所詮人間がやってきたものなんでね、いろいろな誤りもあるでしょうし、不備なところもあろうかと思えます。そういうことに疑問を持ちながら仕事をしてもらうと、非常にいろいろな勉強ができるかと思えます。

人生は赤ボタンを押し続けるということですよ。人生の赤ボタン、黒ボタン聞いたことないですよ。初めて聞く話かと思えます。気持ちの中の問題です。人生の黒ボタンと赤ボタン、これは私も若いときに教えられたことです。黒ボタン、赤ボタンが人にはあるそうです。「何々さんこれやってください。お願いします。」なんて時に、黒ボタンを押す人は、「いや私はそれちょっとあまりできないかな。」と言う人。それから、赤ボタンを押す人は、あまりやったことないけど自信ないけれど「わかりました。やります。」って答える人ですね。そこで人生は大きく変わってしまいます。黒ボタンを押す人は「これできません、あれは知りませんからすいません、ほかの人にやってもらってください。」と言います。一つ言うと次から次へ、私はできません、これできません。という人生になってしまいます。ですから、やれる自信がなくてもやろ

うとして受けてみましょう。「分かりました。やります。」と。受ければ、そこに責任が伴いますので努力しますよね。受けなければ何もしなくていい。ここにとどまっていれば、なんとなく仕事は済んでしまう。だけれど受けてしまうことによって、もうちょっと勉強しなければならないとか、人との調整をしなければならないという課題が与えられます。それによって伸びるんですね。ですから、「誰々さんお願いします。」と言ってきたときには、チャンスだと思ってください。また忙しいのに、課長またこんな仕事持ってきて嫌だ、とかってそういうこともあるかと思われるかも知れませんが、それは誰々さんだったらできるかなとお願いしようということで依頼してくるわけですので、それに応えていく。そして自分がちょっと未知な世界も、やってみようという気持ち、そういうのも是非持っていただきたい。赤ボタンを押し続ける。「はい。かしこまりました。」というのをですね、「分かりました、やります。」というような気持ちでやってみますと、大きく皆さん方の人生というのは変わって参ります。次から次へいろいろこと、自分自身に力もつきますし、いろいろな難しい仕事もこなしていける力を自分自身持つわけですので。逃げないでいただきたいと思います。

人間という話しの中で、抜けてしまいました。ちょっと戻ります。生きることは食べることだ、食べることは生きることだというところがありましたよね。この日野原先生は有名な方です。生きるというのは、時間ですよと言われました。生きるということは時間、確かにそうだなと。死ぬということは時間が止まってしまうわけですから、時間は亡くなった方に時間はもうないんです。生きていくということは時間ですよ。うまいこと言うな、さすが日野原先生だなんて思って聞いておりました。『ストロー袋を満タンに。』ということでもあります。人間というのはパンのみで生きない。食べ物だけ食べていけばいいということではなくて、精神的な治療と言いますか、これが大事なわけです。

実際にこういうのが映画化されました。実際にアメリカであったそうです。ある病院に小さい子、何歳くらいだろう、跳んで歩けるくらいの子供が患者として来たそうです。相談を受けに。その子供はしゃべることができない、言うこともできない。もちろん歩くこともできない。喜怒哀楽が一切ない、できないんです。その子供が患者として来たそうです。医師はなんでこんな子供なんだろうと、調べたそうです。なぜこんなになってしまったのだろう。行き着いた結果が、両親が全く子供に関わってやらない両親だったそうです。泣いたらお母さんがあやしたり、声をかけたり、怒ったり。時には頭をコツンなんてやったり、普通の親は大体そうですよね。読み聞かせしたり。そして子供が育っていきます。けれど、その親は一切しなかったということに医師が気づいたそうです。原因がそこにあるということですので、それ以降、徹底的に看護師さんや病院をあげて子供を、触って激励したり、声をかけたり、とにかくスキンシップ。そういうことをずっと繰り返したそうです。そして、この映画は、今まで這って歩くこともできなかった子供が、病院の廊下を這



って行く後姿で終わります。人間らしさを取り戻してきたということですよ。

非常に怖い話ですよ。食べるものだけ食べていけば、体は大きくなってきますけれど、人間というのはそんな風になってしまうんだと、非常に怖い現実の話だったそうです。そういう意味で、人間は、ごはんだけ食べていけば生きていけるということではなくて、やはり家族、友達、恋人、夫婦とか周りの人達、職場の同僚とか先輩、後輩、そういう人達との関わり合いの中で私達は、生きています。そして、今日頑張ろうという気持ちはどちらかというと、自分自身より周りから与えられるんです。

あなたのお名前は、丸山さんですね。丸山さんのストロークという気持ちの張りは、心の中にあるんですよ。丸山さんの心の中のストロークという袋は膨らんでいないと、丸山さんは毎日暗い気持ちでいて、将来に希望を持ったり、周りの人達に声をかけたり、仕事しようという気持ちにならない。しぼんでしまうわけです。自分の体内に袋がありながらも、自分では膨らませられないんです。周りの人達、自分を取り巻く周りの人が丸山さんのストロークという袋を膨らますしかできないわけです。自分の中にありながら。ということは丸山さんの心の袋を膨らませるには、丸山さんの家族、そして友達とかが、「丸山さん元気かいどうだい？」と声をかけたりそういうことによって、丸山さんの気持ちの底のストロークという袋はどんどん膨らんでくる。そうするとその膨らんだことによって、気持ちがハツラツしてきて、丸山さんが周りの人達に声をかけたり、「おばあちゃんの体調悪いつて言っていたがどうですか。風邪治りましたか。」と、気持ちに余裕が出てくるんですよ。ですから、自分の中の気持ち、ストロークという袋は自分じゃ膨らませられないんです。

だったら、周りのみんなの袋を膨らませてやろう。そうすると返ってきますよね。世の中というのはそういうもんで、自分の周りの人達の気持ちの張りを持たせる。自分から積極的に声をかけて、「元気かい。」という一言だけで、人間というのは単純なところもありますので、元気になったりします。それが挨拶もしない、声もかけないとかでは、良くなりません。みんな頑張って、切磋琢磨して、いい明るい社会を作っていかなきゃならないわけです。一つの役所という環境の中ですので、その中を十二分に活性化させるということは一人でもできるんです。できないなんて思っている人も多いのかも知れませんが、一人じゃできないと思っていれば何でもできないんです。それでも諦めですから。諦めないで一人でも頑張るといって人が一人でも欲しいですよ。今、全国で町づくり運動が盛んです。どの町でもおらが町を活性化させたい、お祭りを復興させたい、町並みを綺麗にしたいなんていういろんなイベントを一生懸命やったり、特産品を作ったり頑張っている人達があります。誰かがやってくれる、誰かやってくれるよね、誰かやるなら応援してやるよというのではだめなんだよね。町づくり馬鹿といわれるような人が

「一人でもやるぜ。」って言えば、大体そこに輪が、人巻きができて応援者ができてきます。一人でも頑張るといふ勇気を持っていただきたいと思ひます。皆さんに期待するものといふことで、人間とそれから仕事といふ部分でお話させていただきます。自分のこれからの長い人生、長いか短いかわかりませんが、これからの人生を切り拓いていくのは誰でもない、自分自身ですので。そして一生といふのは一回ですので精一杯学んでください。皆さんの活躍されることを、心より期待しております。時間がなくなりましたので、ここで終わらせていただきます。ありがとうございました。

|     |                   |
|-----|-------------------|
| 日 時 | 平成25年4月12日        |
| 場 所 | 長野市 長野県自治会館       |
| 研修名 | 新規採用職員（前期）研修 長野会場 |
| 講演者 | 軽井沢町長 藤巻 進氏       |
| 主 催 | 長野県市町村職員研修センター    |